

Hiyoshi Research Portfolio (HRP) は慶應義塾大学日吉キャンパス全体で展開されている研究・教育活動を慶應義塾内外に広く紹介することにより、同活動の成果を社会に還元し、社会との更なる交流と連携を図ることを目的としています。日吉キャンパスは大学7学部、大学院、一貫教育校、諸研究所、体育会、学生たちの自主活動のグループが集う、日本でも類をみない、多様性に富むキャンパスです。第1部では、日吉キャンパスにある4つの研究所・センターを紹介すると共に、“日吉の多様性を繋ぐ上で何が必要か”という視点から語りあいます。第2部では、それぞれのセンター・研究所の視点から一つのテーマに取り組み、多様性を実践する実験的ワークショップです。今回は「踊る」をテーマに、多様な視点を提供し、参加者とともにディスカッションができればと思います。皆様方の参加をお待ちしています。

第1部 | 13:00-14:30

研究活動を繋ぐ

Connecting Hiyoshi Campus

4つの研究所・センター

慶應義塾大学
体育研究所

Institute of Physical Education,
Keio University

ipe.hc.keio.ac.jp



慶應義塾大学
外国語教育研究センター

Keio Research Center for
Foreign Language Education

www.flang.keio.ac.jp



慶應義塾大学
教養研究センター

Keio Research Center for
the Liberal Arts

lib-arts.hc.keio.ac.jp



慶應義塾大学
自然科学研究教育センター

Research and Education Center
for Natural Sciences

www.sci.keio.ac.jp



第2部 | 14:45-16:15

「踊る」日吉リサーチポートフォリオ

Dancing Hiyoshi Research Portfolio

「踊る楽しさと美しさ — 身体と心の調和」

清水 花菜

【慶應義塾大学 体育研究所助教（専門：新体操、スポーツ科学）】

踊ることの楽しさと心身への効果を、新体操を例に科学的に解説。

リズムや姿勢を体感するワークを交え、美しく動く身体の使い方にも触れます。

踊る価値を再発見する講演です。

「『踊る』漢字」

山下 一夫

【慶應義塾大学 外国語教育研究センター所長 理工学部教授】

「おどる」は、漢字を使うと「踊る」と書きます。しかし古典中国語や現代中国語で、「踊」という字は「おどる」を意味していません。また、村上春樹の小説『ダンス・ダンス・ダンス』の中国語訳は『舞・舞・舞』です。なぜでしょうか？ここではこうした、「おどる」漢字についてのお話をします。

「天の宇受売（あめのうづめ）について」

片山 杜秀

【慶應義塾大学 教養研究センター所長 法学部教授】

天の宇受売。この女神が日本の神話で初めて踊りらしい踊りをする神様になりましょう。彼女がどのように踊り、それがどのような機能を果たしているか。そこに思いを巡らせば、日本人の舞踊についての原イメージがうかがえるのではないのでしょうか。そういうお話を少しさせて頂ければ。

「『踊る』にまつわる認知機能： 踊れる赤ちゃんはおしゃべりさん？」

皆川 泰代【慶應義塾大学 文学部心理学専攻教授】

本講演では慶應赤ちゃんラボの研究で示された「踊れる」乳児は言語・社会性発達が良好である、という結果をお話した上で、なぜ「踊る」と言語が関係するかについてリズム同調運動をする動物は発声学習が可能という仮説や複数者の身体・生理の同調現象にもふれながら「踊る」の認知機能を紐解きます。